

日本女子大学史資料集 第一

日本女子大学校

創立事務所日誌  
(一)  
(二)

日本女子大学史資料集 第一

日本女子大学校

創立事務所日誌  
(一)  
(二)

## 凡例

- 一、本資料集は、本学が所蔵している四冊の「日本女子大学校創立事務所日誌」の内、第一分冊と第二分冊を収録したものである。
- 一、本資料集では、原史料の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
  - 一、字体は、人名以外は常用漢字のあるものはこれを使用し、異体字・変体仮名は正字に改めた。仮名遣い・合字・あて字については原文通りとした。
  - 一、誤字・脱字は適宜その傍らに（ ）を付し、正しい字を示した。意味不明の箇所には傍らに（ママ）と注記した。
  - 一、抹消部分は削除することを原則としたが、残した方が適当と思われる箇所は、抹消部分を「」でかこみ、右肩に（抹消）と記した。
  - 一、欄外部分は、「」でかこみ、右肩に（欄外付記）と記した。
  - 一、朱書き部分は、「」でかこみ、右肩に（朱書）と記した。
  - 一、表紙・表紙裏などの必要と思われる注記は、「」を付してこれを示した。
  - 一、印は、㊦・㊧とし、内容が判明する場合は、その右側に「」を付して記した。
  - 一、判読不能部分は、字数の推定できる部分は字数の□で示し、推定できない部分については、「」で示した。
- 一、一行内に字数が納まらない場合は次の行に送った。
- 一、行間は適宜につめたが、長期に渡って記載していない部分は、へ〜で注記した。

目次

日誌

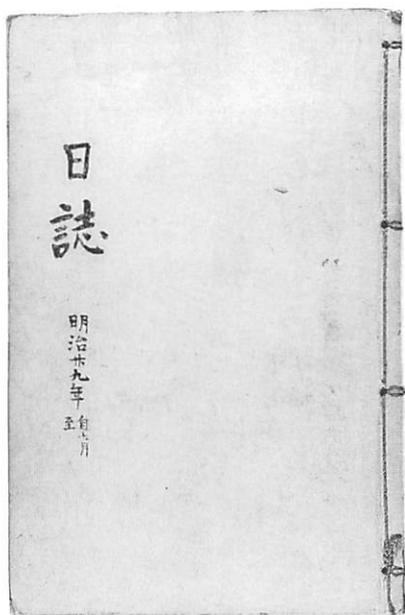
〔明治二十九年七月十七日より明治三十年十月三日まで〕……………6

日誌

〔明治三十一年五月一日より明治三十二年七月十六日まで〕……………36

日本女子大学校

創立事務所日誌 第一分冊



日誌

明治廿九年 自七月 至

七月廿一日  
 在野村町新館和室 及藤仁氏(亦覺夫)  
 七月廿二日 (星期日) 在野村町新館和室  
 七月廿三日 在野村町新館和室  
 七月廿四日 在野村町新館和室  
 七月廿五日 在野村町新館和室  
 七月廿六日 在野村町新館和室  
 七月廿七日 在野村町新館和室  
 七月廿八日 在野村町新館和室  
 七月廿九日 在野村町新館和室  
 七月三十日 在野村町新館和室  
 七月三十一日 在野村町新館和室  
 以上

【表紙】

日誌 明治廿九年 自七月 至

【以下本文】

日誌

明治廿九年七月十七日起

○七月十七日(金)

新田氏此日ヨリ出勤執務 成瀬廣岡両氏神戸行

○七月十八日(土)

成瀬廣岡両氏神戸ヨリ帰阪

○七月十九日(日)

兵庫県知事 周布公平 女子大学設立賛成員承

諾

兵庫県参事官 馬淵銳太郎 賛成員承諾

同県学務課長 佐藤弘毅 同上

同県尋常師範学校長 伊村則久 同上

神戸元町二丁目

市田左右太 賛助員承諾

大津境川町

藪田勘兵衛氏へ女子大学設立趣旨

書十二冊郵送

兵庫県学務課長

佐藤弘毅氏へ 同一部郵送

同県尋常師範学校長

伊村則久氏へ 同上

讃岐高松中新町古田兼弥方林セン子へ書状

要件 其父或ハ知己へ賛助員或賛成員勸誘ノ件依頼

大阪東区和泉町

鴻池新十郎 賛助員承諾

○七月二十日(月)

東区内平野町二丁目

殿村エツ 賛助員承諾

高麗橋二丁目

久原庄三郎 同上

大阪毎日新聞社員

佐伯勢一郎 同上

〃

門田正経 賛成員承諾

〃

高木喜一郎 同上

大阪府参事官

木内伊之介 同上

〃

棟居喜久馬 同上

〃

吉原善右エ門 賛助員承諾

〃

金沢仁作 同上

〃

小倉 幸 賛助員承諾

〃

椿本俊吉 同上

東区博労町二丁目五三

岡崎栄次郎 同上

京都  
大阪府学務課長

吉田作弥 同上  
林 俊太郎 賛成員承諾  
荒木和一 同上  
浅井友太郎 同上  
青木恒三郎 賛成員承諾  
木村静幽 同上

○七月廿一日(火)

成瀬仁蔵子東上ノ途ニ登ル 突然病氣見合ス

平野平兵衛 賛成員承諾  
秋馬新三郎 賛成員承諾  
山口善五郎 同上  
永井仙助 同  
村上嘉兵衛 同  
片岡直温 同  
弘世助三郎 同

○七月廿三日(木)

新田氏奈良行 左ノ三氏へ女子大学設立賛成員承諾ノ儀勸誘ス

奈良県参事官 福原鍬二郎  
同県尋常中学校長 正木直彦  
同県尋常師範学校長 川島純幹

以上

○七月廿四日(金)

成瀬仁蔵氏此日東上ス

但兩三日京都及大津ニ於テ運動ノ見込、

新田氏此日京都へ行ク

但成瀬氏病後同氏ヲ助ケ京都ニ於テ運動スルため、

長州長府 大橋□子へ 女子教育及趣旨書郵  
送同地ノ運動依頼ス  
博労町四丁目 青木高山堂へ書状

杉江田鶴子へ書状

進藤嘉一郎 賛成員承諾  
玉置治郎三郎 同  
石崎喜兵衛 同  
森 作太郎 同

要件(女子教育三十部持参ノ件依頼ス)

此日女子教育三十部 青木嵩山堂ヨリ受取

七月廿五日(土)

京都五条 中村栄助 賛助員承諾  
京都 田中源太郎 同上  
大沢善助 同上  
雨森菊太郎 同上  
数田勘兵衛 同上  
木下廣次 賛助員承諾  
中川謙次郎 同上  
元良勇次郎 同上  
松島 剛 同上  
島田三郎 賛助員承諾

廣岡夫人大阪造幣局長長谷川為治氏方行

要件 局長へ女子大学校設立賛成員承諾ノ勧誘

新田氏此夜十一時頃京都ヨリ帰阪

左ノ両氏へ女子教育及趣旨書ヲ送り女子大学設立賛成員承諾ノ件請求ス

京都府尋常中学校長 本庄太一郎

同府尋常師範学校長 清水誠吾

以上

○七月廿六日(日)

大津境川町数田勘兵衛方 成瀬仁蔵氏へ打電左ニ  
リクコウ キケンアリ ゼヒフ子ニセヨ(午前九時三十分発信)

京都五条 中村栄助氏へ書状  
要件 趣旨書五冊郵送ス 女子教育必要ナラバ報知  
次第送ル

京都地方賛助員纏方頼ム

東京、橋区銀座一丁目七番地西本方

成瀬仁蔵氏へ書状并ニ趣旨書五十冊批評紙数十枚郵送ス

○七月廿七日(月)

東区北濱 平瀬亀之輔 賛助員承諾

北区中ノ島 外山脩造 同上

摂州御影 高安道純 同上

滋賀県知事 嘉納治郎右エ門同上

在東京 籠手田安定 賛成員承諾

成瀬仁蔵氏へ書状

要件 本日迄当地方賛助及賛成員承諾者姓名通知ス

○七月廿八日(火)

大阪東区長 山口昌壽 賛成員承諾

〳 北区長 山口幸七 同上

// 西区長 白男川実福 同上

// 南区長 安井健治 同上

// 西成郡長 白石純治 同上

東成郡長 本山茂樹 同上

東区今橋 和井田佐七 賛助員承諾

靱 菱谷清兵衛 同上

南区畿谷東之町 俣野景孝 同上

京都 奥 繁三郎 賛成員承諾

在東京 成瀬仁蔵氏へ書状

要件 賛助及賛成員承諾者ノ姓名

○七月二十九日(水)

葛野調七 賛助員承諾

片山和助 同上

亀岡徳太郎 同上

原 弥兵衛 同上

清野 勇 賛成員承諾

○七月三十日(木)

大阪尋常師範学校長 渡辺洵一郎 賛成員承諾

南堀江上通五丁目 五百井長平 賛助員承諾

西区幸町魚一丁目 布井良之助

東区南久宝寺町二丁目 水落義平

在東京 成瀬仁蔵氏へ来状

要件 二十九三十兩日ノ賛助員及賛成員承諾者姓名  
及当地ノ出来事通知ス

成瀬仁蔵氏ヨリ来状

在東京

○七月三十一日(金)

造幣局長 長谷川為治 賛成員承諾

民友社員 人見一太郎 同上

南本町三丁目六八 谷村伊右エ門 賛助員承諾

竹尾治右エ門 同上

和田半兵衛 同上

在東京 成瀬仁蔵氏ヨリ廣岡夫人宛来状  
要件 七月三十日東京出発越後路へ向へリ云々

○八月一日(土)

西区阿波座 池永新兵衛 賛助員承諾

大和代議士 植田理太郎 同上

当時東横堀  
南本町寓居

京都第三高等学校校長 杉田彦市 賛成員承諾

○八月二日(日)

○八月三日(月)

尼崎唐物町

大塚茂十郎 賛助員承諾

伊丹

小西新右エ門 同上

東区唐物町二丁目

山口吉郎兵衛 賛助員承諾

西区

小泉清兵衛 同上

在新潟市古町通五番町角方 成瀬仁蔵氏へ書状

要件 今日マテノ出来事通知ス

○八月四日(火)

在越後 成瀬仁蔵氏ヨリ 廣岡夫人宛 来状

女子大学設立賛成勧誘ノ状七通認メ渋川忠二郎子へ渡ス発

信人名義大和紳士 植田理太郎 受信人 北村又兵衛 同

宗四郎 栗山藤作 野村利兵衛 岡橋清蔵 平井太郎 安

田太三郎 以上

京都府知事

山田信道 賛成員承諾

大阪高等女学校長

柴 直太郎 同上

南区南綿屋町

逸身佐兵衛 賛助員承諾

但佐兵衛氏名義ニテ同氏一統取

纏メ応分ノ寄付スベキ約

西区江ノ子島

和田清兵衛 賛助員承諾

日本共同銀行取締

東区北濱 三丁目 阪本鈴之助 同上

○八月五日(水)

判事正六位

近藤巨摩 賛成員承諾

北区船大工町

村山龍平 賛助員承諾

西区阿波堀通五丁目

濱中八三郎 賛助員承諾

左ノ五名へ書状

要件 賛成員承諾成否問合ノ件

奈良県参事官

福原鏡二郎

同県尋常師範学校長

川島純幹

同県尋常中学校長

正木直彦

京都府同上

本庄太一郎

同 尋常師範学校長

清水誠吾

以上

○八月六日(木)

今橋五丁目

増田信之 賛助員承諾

西尾權右エ門 同上

神戸市運動囀託書ニ通認メ廣瀬満正子ノ許へ送ル

兵庫県師範学校長 伊村則久氏へ一通

同県商業学校長 島田重祐氏へ一通

神戸市

廣瀬満正氏へ成瀬氏著女子教育十冊送付

○八月七日(金)

在新潟 (本月二日認) 成瀬氏養廣岡夫人宛ノ状到達

廣岡夫人此日岡山行不在

在東京ノ

新田氏 大阪毎日新聞社員 木内伊之助君ヲ訪ヒ成瀬氏ヨリ郵送湯本武比古君ノ名刺 (但紹介用) ヲ出シ女子大学発表ノ節新聞紙ヲ以テ充分贊助セラレン事ヲ成セ氏ニ代リ請求ス同氏ハ快ク承諾セリ

新田氏此日緒方病院長緒方収次郎子ヲ同病院ニ訪ヒ (訪問四回毎毛面晤ヲ得ス此日施術中取次ヲ以テ問合ス) 先日成瀬氏ヨリ願出タル女子大学設立賛助員承諾之儀成否如何ヲ問フ同氏ハ成瀬氏ヨリ如此依頼ヲ受ケタル事ナク又成瀬氏ニハ一面ノ識モナシ云々ノ返事仍テ一応成瀬氏へ問合スベシトテ帰ル

土倉庄三郎氏へ書状 差出人廣岡

夫人代筆新田

在新潟

成瀬仁藏氏へ書状

要件 本月四日以後ノ出来事通知ス

○八月八日 (土)

廣岡夫人岡山ヨリ帰阪

○八月九日 (日)

大和代議士 植田理太郎氏名義ニテ左ノ諸氏へ書状 (本月四日認ノ状)

奈良県広瀬郡馬見村 平井太郎

同県 吉野郡五条町 栗山藤作

同県高市郡真管村大字大槻 岡橋清藏

奈良県吉野郡上市町 北村宗四郎

同高市郡八木町大字北房 安田太三郎

同葛上郡吐田郷村大字名柄 中村利兵衛

同吉野郡上市町 北村又兵衛

以上七名

安堂寺橋四丁目二四五 浮田桂造 賛助員承諾

南区塩町通二丁目五八 野村利兵衛 同上

大阪府会常置委員○永田仁作 同上

新潟市長並県会議長 ○鈴木長藏 同上

新潟市 ○鍵富三作 同上

越後 ○藤田文治 同上

越後代議士 ○久保田右作 同上

本名

越後與板 ○三輪潤太郎 同上

越後代議士 ○市島謙吉 同上

同 ○大竹賢一 同上

本月四日越後三条玉木善作方成瀬仁藏氏差出廣岡夫人宛ノ状昨八日到達右鈴木長藏子以下七名賛助員承諾ノ通知ナリ

○八月十日(月)

摂州尼ヶ崎

○本咲利一郎 賛助員承諾

新潟古町通五番丁角屋方 成瀬仁蔵氏へ電報出ス 発信人

廣岡アサ カネワタシタ イツタツ

○八月十一日(火)

廣岡夫人女子大信用ニテ大和太瀧村土倉庄三郎君へ往新田  
同伴

○八月十二日(水)

廣岡夫人新田大和土倉氏方ヨリ帰阪

○八月十三日(木)

新潟本月九日発(成瀬氏)書状到達(廣岡夫人宛)

新潟市古町通五番丁角屋方成瀬仁蔵氏へ電報為替ニテ金貳

拾円送付(發送者廣岡夫人)

大和国廣瀬郡馬見村平井太郎氏ヨリ来状

播磨国加東郡市場村大字太郎太夫拾番地

○近藤常三郎 賛助員承諾  
○石川市兵衛 賛助員承諾

○井上淺次郎 同上

○藤本清兵衛 同上

○藤本清七 同上

藤本清兵衛藤本清七両氏趣旨書二冊女子教育一冊送呈

○八月十四日(金)

○八月十五日(土)

在東京、橋区銀座一丁目七番地西本方 成瀬仁蔵君へ書状  
八月九日以後本日マテ賛助員承諾者通知ス

○八月十六日(日)

○八月十七日(月)

○八月十八日(火)

○八月十九日(水)

○八月廿日(木)

廣岡夫人下田歌子へ面晤ノ為須磨行 即日帰阪

○八月廿一日(金)

○八月廿二日(土)

成瀬仁蔵氏東京ヨリ帰阪

三条銀行頭取  
廣川長八

○八月廿三日(日)

三条町  
三条銀行取締  
源川万吉  
賛助員承諾

女子教育十冊趣旨書十冊箱根離宮周ノ宮常ノ宮 両殿下御内下田歌

石田長次郎

子殿ニ郵送此郵税金八拾銭

玉木善作

午後大学用執務 成瀬氏モ亦出席

渡辺幸平

五日廣岡氏ヨリ受取今日迄廣岡氏御取替分二円二十三銭仕

渡辺 腴

孤立替皆勘定済

南蒲原  
一ノ木戸

○八月廿六日(水)

同郡 県会議員  
新瀨村字小栗山  
佐藤宗弥

越後国古志郡長宮地佐之介氏へ女子教育及趣旨書郵送

中蒲原郡  
村松町  
樋口時郎

○八月廿七日(木)

同 村松株式会社  
頭取  
樋口次郎三郎

成瀬廣岡氏神戸行即日帰阪

五泉  
宇田川善蔵

東京市芝区田町八丁目七番地 磯邊包義 賛助員承諾

〃 代議士  
早通村  
佐々木松平

○八月廿八日(金)

同 同村  
同吉沢村  
玉江貞太郎

越後新潟市上旭町常置委 田村寛一郎 賛助員承諾

新瀨市  
鈴木長八

〃 新潟 横山太平 〃

同 医 病院長  
竹山 屯 賛成員承諾

〃 〃 齊藤喜十郎 〃

新瀨県立病院長  
池原康造

〃 〃 白瀬春三 〃

新潟市自由新聞社員  
神原完爾

〃 〃 県会議員 阪口仁一郎 〃

〃 〃

東北日報社員

大桃相資

〃

新潟県書記官

杉本重遠

〃

同県知事

浅田徳則

〃

越後中蒲郡長

並川 一

賛成員承諾

北蒲原郡長

赤津克郎

〃

南魚沼郡長

山際ヤマキ 操

〃

中魚沼郡長

黒田利成

〃

北魚沼郡長

山田八十八郎

〃

東蒲原郡長

清水弘博

〃

古志郡長

宮地佐之介

〃

三島郡長

肥田野畏三郎

〃

神戸

鈴木 清

賛成員承諾

兵庫県師範学校長伊村則久へ書状

○八月廿九日(土)

越後南蒲原郡長

安田正秀

賛成員承諾

大阪

名越愛助

賛成員承諾

神戸 師範学校長伊村則久氏へ女子教育五冊小包ニテ郵送

九銭

○八月三十日(日)

暴風雨

新田午后出席執務

新潟市上旭町 田村寛一郎氏へ書状 新潟市賛助員取纏方  
依頼

越後北蒲原郡 丹後俊平氏へ書状 賛助員承諾之儀及他を  
勧誘するの件依頼す

○八月三十一日(月)

此夜新田自宅ニ於て女子大学用の取調をなす

○九月一日(火)

今津鷺尾松三郎氏へ宛磯野小右エ門名儀ニ而女子大学賛助  
員承諾の勧誘書認め成瀬仁蔵氏へ渡ス

成瀬氏へ女子教育五冊趣旨書十冊渡ス

青木嵩山堂ヨリ女子教育三十冊取寄 成瀬代理新田名義ニ  
而領収証渡ス

○九月二日

新潟市上旭町一番町 田村寛一郎君へ返書差出ス 成瀬氏  
名義

中島四丁目 藤野四郎兵衛氏留守宅御主人御帰宅相成候

ハ、一寸御報知呉れら度儀申遣置 (廣岡あさ子名義)

大学運動之ため成瀬氏堺市へ行

○九月三日(木)

御影嘉納次郎右エ門名義ニ而 奈良の中村某氏の女子大学  
設立勧誘ノ添書認め明日奈良行の成瀬廣岡両氏へ渡

九月四日 (金)

成瀬廣岡両氏奈良行

○九月五日 (土)

堺市長

大西五一郎

賛助員承諾

奈良町東向南

田中平兵衛

同上

郡山町大字材木町

谷村弁造

同上

奈良町後藤

玉田金三郎

同上

奈良県参事官

福原鑛二郎

賛助員承諾

同県師範学校長

川島純幹

同上

趣旨書六冊

女子教育一冊 奈良後藤 玉田金三郎氏へ小  
包ニテ郵送ス

成瀬洪川両氏大学運動の爲め此日神戸及兵庫へ行

○九月六日 (日)

兵庫川崎町

有馬市太郎

賛助員承諾

神戸市

池田賢兵衛

同上

兵庫長沢町三丁目

米穀取引所支配人 賛助員承諾  
山下幸雄

神戸市川崎正蔵様内川崎芳太郎氏へ女子教育一冊郵送 小  
包ニテ

兵庫川崎町川西正兵衛氏へ女子教育一冊小包ニテ郵送ス

兵庫県師範学校長伊村則久 同県商業学校長島田重祐両氏  
へ神戸兵庫現今運動の状況を報知し尚神戸取締方依頼之状  
差出ス 又島田重祐君ニは改めて賛助員御承諾の儀願出さ  
るも既ニ御承諾のものとみなし名簿記載せし事を通知す

兵庫商業学校長

島田重祐

賛助員承諾

郡山町 奈良県尋常中学校長正木直亮氏へ賛助員承諾成否  
の催促状差出ス

○九月七日

兵庫長沢町三丁目 山下幸雄氏へ本日迄賛助員及賛助員承  
諾者の名簿郵送

○九月八日 (火)

京都田中村出町橋東詰大半方麻生正蔵氏へ趣旨書五冊郵送  
ス

東京芝白金三光町

米国理学士

真木平一郎賛助員承諾

京都市

濱岡光哲賛助員承諾

○九月九日(水)

女子大学設立趣旨四百冊 土佐堀三丁目福音社へ注文本月十四日夕迄ニ出来ノ約

○九月十日(木)

京都出町橋東詰田中村大半方 麻生正蔵氏へ女子大学設立発起人及賛助賛成承諾者ノ名簿二冊小包ニテ郵送

○九月十一日

○九月十二日(土)

南区田辺貞吉 賛助員承諾

○九月十三日(日)

○九月十四日

奈良県尋常中学校校長 正木直彦 賛成員承諾ノ通知アリ  
女子教育四冊 麻生正蔵氏へ送ル(成瀬氏友人へ托

趣旨八十冊

送) 福音社ヨリ領収

○九月十五日(火)

○九月十六日(水)

東区内淡路町 田口謙吉 賛助員承諾

○九月十七日(木)

趣旨書三百廿冊 福音社ヨリ受取 (前後四百冊入)

○九月十八日(金)

新潟県尋常中学校校長

中村恭平氏へ書状

(要件

此状御落<sup>(7.2)</sup>后七週間内ニ何等ノ御沙汰ナケレバ賛成員承諾者ト認メ名簿ニ記入スル事

新潟県師範学校校長濱野寅吉君ヲ勸誘シ其承

諾成否通知依頼ノ事 差出人発起人四名

返事ハ土佐堀宛)

越後南蒲原郡加茂町

石田友蔵氏へ書状

(要件 女子大学設立賛助員承諾之件 此状到達後一

週間内ニ何等ノ沙汰ナキ時ハ承諾者ト認ムル事)

差出人発起人四名  
住所ハ土佐堀廣岡

越後南蒲原郡一ノ木戸

渡辺腆氏へ書状

(要件) 田卷丈七郎 大学設立賛助員承諾 成否如何

田卷三郎兵衛氏ハ鈴木長藏氏まで断り来ル

誰ソ適任者を得テ再ヒ勧誘致度可然相頼申

云々)

播州加東郡市場村大字太郎太夫拾番地

近藤常三郎氏へ書状

(要件) 同氏□村賛助員取纏め方催促状)

○九月十九日(土)

奈良東向 田中平兵衛氏ヨリ来状同氏ノ勧誘ニヨリ左ノ

三子賛助員承諾の報知アリ

奈良県平群郡安堵村大字東安堵 今村勤三 賛助員承諾

奈良町 関 藤次郎 同上

奈良町鍋や奈良町長 小林駿藏 同上

諸費トシテ成瀬仁藏氏ヨリ金拾円領収

○九月二十日(日)

奈良町東向 田中平兵衛氏へ書状

要件 十九日着状ノ賛助員勧誘ノ礼状

○九月二十一日(月)

堺市甲斐西二旭ビル会社社長 鳥井駒吉 賛助員承諾

大阪北濱 菊池侃二 賛成員承諾

○九月二十二日(火) 秋季皇靈祭日

大阪東区今橋四丁目 西村輔三 賛助員承諾

○九月二十三日(水)

成セ<sup>遊</sup>廣岡両氏運動の爲め播州住吉行

○九月廿四日(木)

兵庫<sup>兵部</sup>兵庫<sup>兵部</sup>魚崎村 山邑太左エ門 賛助員承諾

兵庫<sup>兵部</sup>新在家村代議士 花木甚右エ門 同上

同県武庫郡稗田村 若林與兵衛 同上

京都中学校長 本庄太一郎 賛成員承諾

○九月廿五日(金)

○九月廿六日(土)

成瀬氏運動の爲め京都市

○九月廿七日(日)

○九月廿八日(月)

兵庫県新在家 式部 若林与左之門 賛助員承諾

越後南蒲原郡加茂町 石田友蔵 同上

新潟県尋常中学校校長中村恭平氏ヨリ来翰微力者賛成員断ル云々

摂州灘新在家廣岡酒造支店大西源助子の手を經而

大石村 若井源左エ門氏へ書状

要件 (頃者若林與兵衛 大西源助両氏ヨリ勧誘申セ

シ日本女子大学設立賛助員承諾成否如何御状

到達何等ノ沙汰ナケレバ承諾ト認メ貴名賛

助員承諾者名簿へ記載スベシ云々 差出人発

起人四名)

(大西氏ニハ此状若井氏方へ持参し返事ノ成否  
報知セヨ云々)

○九月二十九日 (火)

○九月三十日 (水)

西区鞆中通

玉手弘通

讚助員承諾

東区伏見町五丁目

田中太七郎

讚助員承諾

廿九年十月一日 (木)

京都烏丸高辻南 高島屋 飯田新七 賛助員承諾

飯田新七氏ヨリ来状賛助員承諾之通知

○十月二日 (金)

吉野郡西新口 吉野銀行取締 岡本徳永 賛成員

添下郡々山町大字高田 郡山製油会社 奥田藤治郎 同上

添下郡平城村大字秋篠 取締 右同断 森村米次郎 同上

○十月三日 (土)

摂州武庫郡今津 鷲尾久太郎 賛助員承諾

十月四日 (日)

十月五日 (月)

京都烏丸蛸薬師 吉田直次郎 賛助員承諾

京都府勸業課長 宮崎豊二 賛成員承諾

京都烏丸蛸薬師 吉田直次郎子へ趣旨書一冊郵送

○十月六日 (火)

神戸市 九鬼隆輝氏へ書状

京都市区長 竹村藤兵衛氏へ書状

同 辻信次郎氏へ書状

要件 (三氏共発起人五六日内ニ東上ス、東上前京阪神地方取纏度、賛助員承諾ノ成否至急返事待ツ)

(五日認メ六日早天投函)

摂州灘新在家廣岡酒造支店 大西源助氏へ書状

要件 増田平兵衛氏住所取調ノ件依頼 (発信人廣岡あ

さ)

京都上京寺町通今出川下ル北の辺町本禪寺内心城院 麻生

正蔵氏へ書状

要件 京都府勸業課長宮本氏ノ名取調ノ件依頼ス (発信

人新田)

○十月七日 (水)

新田此夜大学用執務

在東京ノ内海知事へ電信発ス (成セ氏上京ノ時機問合ス)

○十月八日 (木)

成瀬氏此朝大阪出發東上ノ途ニ就ク

堺市甲斐西二 鳥井駒吉 堺市長大西五一郎 両氏へ書状

(連名)

要件 女子大学設立賛助員承諾及堺市賛助員取纏メ方ノ

勞ヲ謝シ賛成分ノ承諾者ヲ出センヤ、通知方依頼

ス、(差出人発起人)

神戸市 小寺泰次郎氏へ書状

要件

内海知事及成瀬洪川両氏ヨリ女子大設賛助員承諾ノ儀勸誘ス尔後此計画ニ付如何熟考 発表ノ

日モ近付ケリ願クハ賛助員承諾セラレヨ 成否ノ

返辞相待ツ 差出人発起人四名

摂州西ノ宮 辰馬吉左衛門氏へ書状

要件

辰馬喜十郎氏ヨリ女子大学賛助員ノ事勸誘アリシ事ナラン

実ハ発起人總代トシテ成瀬仁蔵罷出委曲願出之処急ニ上京不任意遺憾、貴下此拳ヲ好ミシ

賛助員承諾セラレタシ 成否一報ヲ煩ハス

差出人発起人

摂州西ノ宮 辰馬悦蔵氏へ書状

要件 前同断 発信人発起人

摂州武庫郡今津 鷺尾伴五郎氏へ書状

要件

鷺尾久太郎君ヨリ女子大学設立賛助員ノ事勸誘セシナラン

以下同上

鷺尾幸次郎氏へ書状

要件

前同断

摂州西ノ宮

要件

辰馬喜十郎氏へ書状 先日女子大学設立賛助員承諾ノ件 成セ仁蔵ヨリ勸誘ス其後如何 熟考セラレシヤ 承諾ノ

成否如何 一報煩ハシ度 且又御本家へモ貴下ヨリ充分勧誘被成下是レ亦承諾セラルル様周旋頼ム云々 発信者発起人

京都上京寺町通今出川下北の辺町本禅寺内心城院

麻生正蔵氏へ書状

要件 西村治兵衛 内貴甚三郎及尋常師範学校長

清水誠吾三氏取纏め方、下村(大丸) 千宗

両家へ賛助員承諾之儀勧誘方 京都府勸業課長宮

本氏の名取調べノ件依頼云々 発信者新田

京都新町五条下ル 竹村藤兵衛氏ヨリ来状

要件 主人近県旅行不在 帰宅後 賛助員

承諾成否ノ返事スル事(発信者代人

山本亜三郎)

○十月九日(金)雨

○十月十日(土)

○十月十一日(日)

備前国児島郡藤戸村

星島謹一郎

賛(成)員承諾

灘新在家大西源助氏ヨリ来状

要件 御照会ノ増田平兵衛ト申ス仁ハ小生ノ知ラサ

ル人ニ候云々

京都麻生正蔵氏ヨリ来状

要件 千宗ノ本名ハ西村総左エ門 本日訪問セシモ

光田梅子ヨリハ何等ノ談モ無之由ニ付面会ヲ

求ムルモ失礼ト存シ本日ハ其儘ニシ帰ル、西

村治兵衛内貴甚三郎両氏ニモ本日漸ク紹介ヲ

賈ヒ問訪セシモ面会不出來、清水誠吾氏モ未

夕賛成ノ場合ニ至ラス、大丸ハ成瀬氏ヨリ既

ニ依頼セシヤ又小生ヨリ新ニ依頼スルモノナ

ルヤ如何云々 京都府勸業課長ハ宮崎豊二

ニ候、

廣岡御夫人此夜十時梅田発ノキ車ニテ大阪出發東上せられ

たり

東上ノ途次大磯へ立寄り伊藤前総理大臣へ面晤ノ筈、

○十月十二日(月)

灘新在家 大西源助氏へ書状 (発信人廣岡あさ名義)

要件 先日御照会申候増田平兵衛ハ此方ノ覚違何度ハ

貴下先日御來阪ノ節御話有之候女子大学設立賛

助員承諾者ノ姓名全ク忘却尚一応其姓名住所

御報知有之度云々

京都府勸業課長 宮崎豊二

○十月十三日(火)

○十月十四日(水)

京都同志社 麻生正蔵氏へ書状

要件 大丸ニハ未だ勧誘せし者なし始めてに、当地

取纏め者随分困難出来得丈御届被下、発表後

廣岡夫人も御地へ運動試むるとの事 廣岡夫

人ハ十一日夜キ車の利東上。大磯へ立寄、十

三日東京着との事云々

摂州灘新在家村 大西源助氏ヨリ来状

要件 先般ノ承諾者ハ武庫郡新在家村 花木甚右エ

門 同若林與左衛門 同郡神田村 若林与兵衛

同郡西灘村 増井久太郎 摂州高砂港 松本亀太郎

の五名ニ御座候云

摂州武庫郡西灘村 増井久太郎 賛助員承諾

播州高砂港 松本亀太郎 同上

十月十五日(木) 晴

十月十六日(金)

十月十七日(土)

十月十八日(日)

十月十九日(月)

在東京廣岡御夫人ヨリ来状

要件 星島謹一郎氏者賛成員ニアラス賛助員承諾

者ニ付訂正セヨ云々

在東京麴町区飯田町三丁目廿六番地三井別邸 廣岡御夫人

へ書状

要件 御通知ニ從ヒ星島氏者賛助員名簿へ転載

ス、

増田平兵衛ハ賛助員名簿ヨリ削除し其代ニ摂州武

庫郡西灘村増井久太郎 播州高砂港 松本亀太郎

の両氏ヲ賛助員名簿ニ記入スル事

又京都府勸業課長宮本某者 宮崎豊二の誤ニ付訂

正云々ノ件、

○十月廿日(火)

○十月廿一日(水)

○十月廿二日(木)

○十月廿三日(金)

兵庫宮内町 曾根忠兵衛 賛助員承諾

〃 曾根外次郎 同上

〃 今出在家町 外見吉明 同上

〃 北宮内町 泉谷勘一 同上

兵庫磯ノ町 栃木庄兵衛 賛助員承諾

〃 永沢町 岡田元太郎 賛成員承諾

〃 西出町 西沢房太郎 同上

以上

東京銀座一丁目七番地西本方 成瀬仁蔵氏へ書状

要件 右兵庫賛助員及賛成員承諾者七名通知

成瀬氏不得止用事ニテ昨夕帰阪

○十月廿四日(土)

成瀬氏此日出立東京へ向ふ

○十月廿五日(日)

○十月廿六日(月)

○十月廿七日(火)

○十月廿八日(水)

○十月廿九日(木)

神戸九鬼隆輝氏ヨリ来状

要件 女子大学賛助員承諾辞退ノ件

○十月三十日(金)

○十月三十一日(土) 雨

○十一月一日(日) 晴

○十一月二日(月)

○十一月三日(火)

○十一月四日(水)

○十一月五日(木)

○十一月六日 金

○十一月七日(土)

東京銀座一丁目七番地西本方成瀬仁蔵子へ書状

要件 神戸九鬼隆輝子賛助員辞退ノ件

○十一月八日(日)

伯爵夫人 大隈綾子

以上兩名 發起人承諾

○十一月九日(月)

○十一月十日(火)

東京廣岡御夫人ヨリ來狀(但同家宛内々)

要件

公爵

近衛篤麿

賛助員承諾

伯爵

蜂須賀茂韶

同上

洪澤栄一

同上

大倉喜八郎

同上

甲武鉄道会社長

三浦泰輔

同上

以上五名賛助員

○十一月十二日(木)

(栄一夫人?)

洪澤可祢子

發起人承諾

伯爵

土方久元

賛助員承諾

大審院長

南部利克

嬰男?、同上

文部次官

牧野伸顯

同上

栗塚省吾

賛助員承諾

右本日東京ヨリ通知及

洪澤栄一子女子大学設立ニ付大ニ奔走東京都合頗る宣布云々

加藤勝弥

賛助員承諾

以上四名 賛助員

伊藤博文

○十一月十三日(金)

西園寺公望

大隈重信

○十一月十四日(土)

松方正義

以上四名 是迄賛助員ノ処今般賛助員承諾

伯爵夫人

伊藤梅子

○十一月十五日(日)

○十一月十六日(月)

大阪堂島濱通 重太郎夫人 松本濱子 発起人承諾

○十一月十七日(火)

○十一月十八日(水)

○十一月十九日(木)

○十一月廿日(金)

成瀬氏運動都合ニヨリ夜前帰阪

○十一月廿一日(土)

京都

濱岡章子

発起人承諾

東京

龍居頼三

賛成員承諾

〃

加納治五郎

同上

〃

坪内雄蔵

同上

〃

吉村鉄之助

賛助員承認

〃

三好退助

同上

横濱

山ノ井清次郎

同上

東京

侯爵 夫人 蜂須賀夫人 発起人承諾

東京

大倉徳子 同上

東区博労町心斎橋角 青木嵩山堂へ書状

要件 女子教育十冊此状到達次第持参アリタシ云々

(発信者廣岡方新田)

○十一月廿二日(日) 雨天

青木嵩山堂ヨリ女子教育十冊持参

○十一月廿三日(月)

○十一月廿四日(火)

大和大滝

土倉寿子

発起人承諾

東京

兒島惟謙

賛助員承諾

南区南綿屋町

石川市兵衛氏へ女子教育八冊及趣旨書

八冊送付ス

○十一月廿五日

○十一月廿六日

○十一月廿七日

○十一月廿八日

○十一月廿九日

候学校位地ハ大阪ヲ主張ス云々  
奈良県参事官福原隼二郎子へ書状

○十一月三十日

廣瀬幸平 発起人承諾

磯野小右エ門 同上

西園寺公望 同上

周布貞子 発起人承諾

山田キヨ子 同

徳大寺實則 賛助員承諾

岩倉（自定殿カ） 同上

十二月一日

備中都字郡早島 溝手保太郎 賛助員承諾

○十二月二日（水）

成瀬仁蔵氏此日沓番キ車ニテ再東上

備中都字郡早島 溝手保太郎君へ書状

要件 女子大学校設立ノ件ニ賛助員之儀荒木和一氏ヨ

リ勧誘セシ処早速御承諾難有存候貴名賛助員へ記入致

置候儀 趣旨書一冊郵送ス御覽被下度候云々

大阪南区南炭屋町石川市兵エ氏へ書状

要件 成瀬氏ヨリ御依頼致置候賛助員取纏め方何分□

発表近日ニ付代人新田三四日の内参□御模様御伺可申

候学校位地ハ大阪ヲ主張ス云々

奈良県参事官福原隼二郎子へ書状

要件 先般成瀬ヨリ御願申置候貴県書記官女子大学校  
設立賛成員諾否御一報是仰 云々

澁川忠二郎子へ賛助員賛成員発起人承諾者名簿一通渡ス

○十二月三日

廣岡久右エ門 発起人承諾

○十二月四日

京都 麻生氏へ書状

○十二月五日（土）

○十二月六日（日）

○十二月七日（月）

○十二月八日（火）

○十二月九日（水）

東京築地老丁目廿五番地松村介石方成瀬仁蔵子へ書状

要件 鴻池芝川両氏へ発起人勧誘ニ付廣岡御主人御問

訪相成たる処両子は未だ女子大学設立の件ニ付御話し  
不承従而賛助員承諾不仕との事ニ而空しく御帰宅相成  
たり両氏の如き名望家先承諾するニあらざれば他の  
人々を取纏め候事仲々六ヶ敷とて御当惑の御様子如何  
致とて宜敷哉。廣岡御夫人へも御相談の上至急何とか  
御主人迄御返辭相待申候云々

○十二月十日(木)

○十二月十一日(金)

○十二月十二日(土)

○十二月十三日(日)

○十二月十四日(月)

○十二月十五日(火)

○十二月十六日(水)

東京、橋区山成町壱番地朝陽館成瀬仁蔵氏より来状

要件 内海知事現任、及転寓之件

同上成瀬氏へ書状

要件 内海知事は当時多分神戸との事

○十二月十七日(木)

○十二月十八日(金)

○十二月十九日(土)

○十二月廿日(日)

○十二月廿一日(月)

○十二月廿二日

○十二月廿三日(水)

東京、橋区山成町壱番地朝陽館成瀬氏へ書状

要件 廣岡久右エ門子発起人承諾之件

十二月廿四日

十二月廿五日

成瀬氏東京ヨリ帰阪

十二月廿六日

同廿七日(日)

〃廿八日(月)

廣岡御夫人此夕東京ヨリ帰阪

十二月廿九日(火)

十二月三十日(水)

十二月卅一日(木)

此夕成瀬氏ト会計取調

計算書

- 一金參拾円也
- 一金拾四円六拾九錢也
- 一金七円四十三錢也
- 一金七拾貳円三十五錢
- 一金四円三十七錢也
- 一金壹円十四錢也

- 主趣書印刷料
- 旅費 廣岡夫人大瀧行新田大阪 奈良京ト行洪川兵庫行等
- 名簿帳簿其他筆墨紙
- 女子教育代
- 小包、郵書等郵税
- 電信料

一金三十八円也

一金二十五円也

一金七拾六円也

一金百〇五円也

一金百五十円也

一金拾五円也

一金四拾円也

一金卅七円五十錢

合計 六百十六円四拾八錢也

明治三十年一月一日より五月二十一日まで記述なし

【明治三十年】

明治卅年五月二十二日

森田皓 玉木泰次郎兩名廣岡氏邸事務所ニ於テ執務

京都大可樓ヘ左ノ如ク打電

ヨ、クマハクコンニチケウトツクカヘン

同樓ヨリ左ノ如キ返電アリ

アス四ジチャク

新田手当 六ヶ月分

杉江氏へ貸与

キ車賃 成瀬氏東京大阪往復 六度内二度中等キ車

在京百五十日間人力車賃

但一日七十錢ノ割

宿料 百五十日分但一日二円

キ車及人力車賃 成瀬氏越 後行

成瀬氏 在阪中人車賃及 旅費等

成瀬氏諸雜費七ヶ月分

高木貞衛氏事務長トシテ執務

荒木和一、香川千三郎両氏補助執務

土倉成瀬、渋川、田村  
廣岡諸氏集会準備ノ件  
ヲ談ス

五月廿三日

高木、森田、新田、玉木執務

板東保太郎、小池史郎兩

氏補助執務

大隈伯西下ニ付土倉庄三郎、成瀬仁蔵両氏米原迄出向

廣岡、香川、渋川、土倉、成瀬の諸氏如例集会、

廣岡氏より東京日本橋□日本橋西川岸旅館島平方木原忠兵

衛氏宛に発信す（要件大学校本日廿六日の会合に代理人差

出請求の事）

廣岡方成瀬氏より京都フヤ町ヒイラギヤ方土倉氏宛打電

ヲラクマハクフジンノライイハンウムキタバタケニヲキ

キコウ

京都日の出新聞へ向け左ノ如ク打電す

ヒラギヤニテドグラシヤウサプロウシニニヨシダイガ

クハッピヨウシキノコトキキテアスノシンブンニカイ

テクレ

発起人及び其他へ招待状を發す 其數

市外二百〇九通  
市内四百四十四通

右発起人の招待状は加島銀行岡田氏採筆セラル、

五月廿四日

高木、森田、玉木出勤、

前日ニ引續招待状ヲ發す其數四拾彥通

明後廿六日女子大学校発起人会及設立披露会開会ニ付当日

ノ接対掛ヲ左ノ如ク定ム

田村太兵衛、伊藤徳三、渋川忠次郎、廣岡信五郎

砂川雄俊、前川楨造、高木貞衛、香川千三郎

麻生正蔵、四区長

成瀬、廣岡、渋川、香川、土倉の諸氏例の如ク集会、

五月廿五日

高木、森田、玉木如例出勤、

土倉、廣川、成瀬、渋川、香川の諸氏依例集会準備の件ヲ

談ず

五月廿六日

此日午前十一時於中之島ホテル発起人会ヲ催フス、会スル

者四十五名大隈伯爵モ来臨セラル、大ニ各発起人ヲ奨励セ

ラル、会ハ午後二時過ヲ以テ一先ツ終了シ大隈伯モ亦旅館

花屋へ赴カル

午後四時更ラ女子大学校披露会ヲ同ホテルニ開会ス貴顕ノ

来臨セラル、モノ大隈伯近衛公及土方伯ヲ初メ内海大阪府

知事等ナリ ヤガテ午後六時頃ニ及ブ間来会ノ紳士凡ソ三百ヲ以テ数フルニ至ル則チ午後六時半開会内海知事開会ノ主旨ヲ明カニセラル、第二席ハ成瀬仁蔵氏ニシテ氏ハ最モ熱心ニ日本女子大学校設立之必要ヲ演ベラレ、大隈伯第三席ニ土方伯第四席ニ第五席に近衛公演説セラル、之二次イデ板垣伯、山田京都府知事、北畠男ノ贊文朗読アリ此時既ニ午後九時ヲ過ギタレバ砂川氏演説ノ筈ナリシモ見合せ廣瀬宰平氏ノ談話筆記ヲ朗読シテ会ヲ終リ食事ニ移リ散会ヲ告ゲシハ午後十二時ナリシ

此日天氣清朗、諸氏の熱心ハ大ニ満堂ノ注意ヲヒケリ、来会者発起人四十五名案内ニ依ツテ会セラレタルモノ二百七十四名外ニ世話人二十名計三百三十九名ナリシ

五月廿七日

大会残務取扱ヲナス、

高木、森田、玉木執務、

五月廿八日

森田 玉木 残務取扱

五月廿九日

森田 玉木 残務取扱

成瀬氏大隈伯見送の爲め京都へ向フ、午後五時在京都成瀬氏と協議スベキ事アリ廣岡夫人 玉木随行京都へ赴ク、即夜同行帰阪す、

五月卅日

五月卅一日

六月一日

玉木出仕

六月二日

玉木執務

六月三日

玉木執務

〈六月四日より八月七日まで記述なし〉

八月八日

創立事務ヲ麻生氏ニ仮リニ依頼ス。成瀬氏其為ニ京都へ書類ヲ持チ来ル。

八月九日

「女子教育演舌」ヲ發起人贊助賛成人等ニ贈ル。

玉田金三郎。小西新右エ門。大隈伯<sup>二</sup>。原六郎。土倉庄。近衛公<sup>三</sup>。田中源太郎。板垣伯。星島謹一郎。山中平兵衛。嘉納治郎左エ門。奥繁三郎。若林与左エ門。折田平助。淺田知事。市原盛宏。鳥居駒吉。鈴木清。九鬼隆輝。宅徳平。梅木正兵衛。川島純幹。堀謙二郎。市田左右太。大山侯前原巖三郎。市島徳次郎。野崎武吉郎。大澤善助。花木甚左エ門。岩崎男。雨森菊太郎。折田彦市。水野寅次郎。泉仙助。竹村藤兵衛。松方幸三郎。藪田勘兵衛。若林与兵衛。鷺尾久太郎。中村栄助。今村勘三。大西五一郎。高島鞭之助。大倉喜八郎。大森鐘一。大江清兵衛。井村則久。渋沢栄一。森村市左エ門。川崎正藏。鳩山和夫。樺山伯。蜂須賀侯。若林源左エ門。三井三郎助。

八月十日

人名登簿ス。

八月十四日

成瀬氏京都行、

□□新七、内貫甚三郎、辻信次郎、濱岡光哲、高田早苗、田原一郎、松山高吉、中川小十郎二冊送ル、

八月十五日

日本女子大学校設立趣旨書巻冊宛ヲ

天皇陛下並ニ皇后陛下へ奉ル為メ之レガ執奏ヲ土方宮内大臣ニ依頼ス、氏直ニ之ヲ諾セラレタリ、本日二冊ヲ同伯ニ渡ス。

千葉貞幹、渡辺□二郎、武田民三郎、山田春之、有馬純郎、下郷傳平、中国民報社、西沢正太郎、日東新聞社、

八月十七日

成瀬氏大和土倉氏を訪ふ 東京行に決す

八月十八日

成瀬氏大和より帰阪す、

八月十九日

成瀬氏京都を経東京へ行く、

〜八月二十日より九月十日まで記述なし〜

九月十一日

成瀬氏帰阪す

九月十六日

成瀬氏京都へ行く

九月廿三日

〃

九月廿四日

成瀬氏土倉氏宅へ行く

へ九月二十五日より十月二日まで記述なし

十月三日

神戸開会中ノ帝國教育大会場ヲ借り午後六時より女子教育演説会ヲ催フス演舌者

日本女子大学校ニ就テ

成瀬仁蔵

女子教育所感

中川小十郎

女子教育ニ就テ

嘉納治五郎

演題未定

伊澤修二

其他原敬、砂川雄俊ノ二氏大阪ヨリ来リ演説スルノ約アリシモ共ニ支差生レテ来ラズ 九鬼男、河内信朝両氏モ来ル筈ナリシモ来ラサリシ、京都大学総長モ同様。但至極好結果アリタルモノ、如し、傍聴者ハ主トシテ教育家ナリキ、神戸栄町六丁目武田貞吉、及び金子百円ヲ寄附ス。本日ノ集会ニ要シタル前後ノ総入費ハ五十円余ナリキ。

(手紙文)

謹啓仕候貴下無沙汰「」候 陳は(此度)日本女子大  
学校資本金募集之儀經濟界不振の爲め暫時相見合せ居り次  
第此度以下委員諸氏へ右着手之儀相談致し候処皆々御賛襄  
致候(就ては)貴下(此度)に於ても此儀御領承被成下一段と御尽  
力之段奉願上候(就ては)貴下(此度)に於ても此儀御領承被成下一段と御尽  
を以て通知致し「」度候間これ亦御承知被成下度候

創立委員(イロハ順)

- 諾 岩崎弥之助
- 諾 土倉庄三郎
- 〃 大隈重信
- 〃 加納治五郎
- 〃 田中市兵衛
- 未 田中源太郎
- 諾 田村太兵衛
- 諾 成瀬仁蔵
- 〃 村上龍平
- 諾 内海忠勝
- 〃 野崎武吉郎
- 未 大三輪長兵衛
- 諾 久保田讓

諾 前川 楨 蔵  
近衛 篤 麿  
兒島 惟 謙  
西園 寺 公 望  
北島 治 房  
洪 沢 栄 一  
廣 岡 信 五 郎  
住 友 吉 左 衛 門



【表紙】

明治三十一年自五月一日

日本女子大学校

〔東京神田区一ツ橋通町廿一番地帝国教育会内〕

〔日本女子大学校創立事務所〕

日誌

【表紙裏】

寄附金簿

巻冊

式号

加藤錦子、

【以下本文】

五十 車夫 二十錢つゝ

三人 別当 //

三人 御者 五十錢つゝ

〆十二円十錢也

近衛公爵。

衆議院

渡辺新太郎

衆議院

波多野傳三郎

〃

東伍久作

江原素六

土方子令夫人

加藤勝彌

文部省技師

久留正道

衆議院議員

草刈親明

蜂須賀侯爵

貴族院

市島徳次郎

貴族院

諫早家崇

衆議院

石原彦太郎

大隈伯爵

吉田秘書官

外 一人

衆議院

佐藤兵八

坂本理一郎

島村成達

廣岡夫人

島田三郎

松尾

貴族院

児島惟謙

衆議院

市島謙吉

開発社

湯本武比古

森田秘書官

土居光華

藤

松内

明治三十一年五月一日

一成瀬麻生の両氏東京へ上ル。此行の目的は資本金募集に着手する為めなり。

五月二日

一成瀬氏中川君を訪ふ。伊藤侯を訪ふ大磯滞在につき不遇、

一成瀬麻生両氏中川君の宅へ移る。

五月三日

一成瀬氏大隈伯を早稲田に訪ふて募金着手の件を謀る。此度着手之事に関し伯は大に賛成の意を表せられ徹頭徹尾助力すべしと云はれたり。

本日相談せし件々ハ

一 発起人総代を伊藤侯に、創立委員総代を大隈伯に依頼すること、若し此事纏らざる時にハ之を廃して創立事務監督を岩崎北島両男に依頼すること。

一 創立委員増加する事。

⑤ 田中市兵衛、⑥ 田村太兵衛、<sup>山</sup>村上龍平、<sup>河</sup>前川楨蔵、<sup>加</sup>加納

治五郎、<sup>久</sup>久保田讓、<sup>高</sup>高嶺秀夫、<sup>田</sup>田中源太郎、

一 久保田君創立委員タルコトヲ辞し濱尾君ニ依頼スルノ可ナルヲ説ク

一 嘉納治五郎君は創立委員タルコトヲ諾セラル

一 土倉氏ヲ原六郎氏宅ニ訪フテ此度ノ□件ヲ相談セシニ万事承諾セラレタリ

一 幹事長ヲ中川小十郎氏ニ幹事ヲ麻生氏ニ托スルコトニ決ス

五月四日

一 大森兵庫県知事ニ創立委員タランコトヲ依頼スルノ手紙ヲ出ス

一 野崎武吉郎濱岡光哲両君へ此度募金ニ着手スルコト並ニ其旨を各発起人等へ通知スル旨承知シクレヨトノ手紙ヲ出ス

一 住友吉左衛門氏ヨリ左ノ通り電報ニテ会計ノコト承知シ来レリ

クワイケイノコトシヨチシタ

一 北島男爵へ伊藤侯発起人総代タルヲ諾セラレナバ大隈伯

ハ創立委員総代タルヲ承知セラル、モ若し伊藤侯諾セラレサル場合ニハ事務監督を閣下ト岩崎男へ依頼スルコト、致シタルニツキ承知シクレヨトノ手紙ヲ出ス

一 成瀬氏伊藤岩崎高嶺氏ヲ訪フモ面会ノ機ヲ得ス。近衛公モ不在ニテ面セス。西園寺公ヲ訪フ候ハ大隈伯ヲ委員長ニ推シ児島氏ハ土方伯ヲ推シタリ。

一 加島銀行ニテ金三十万円ヲ借ル

五月五日

一 住友吉左衛門氏へ礼状ヲ出ス

五月七日

一 久保田讓氏創立委員タルヲ諾セラル

一 成瀬氏日本橋区具服町都屋へ転ス

一 麻生氏神田錦町三丁目峽湯館ニ転ス

五月八日

一 大森兵庫県知事ニ左ノ通り打電ス

イインオンダクコフ

一 大森知事より謝絶ノ返電アリ

五月九日

一 事務所ヲ神田一ツ橋通帝國教育会内に設ク

一 田辺貞夫氏ニ発起人中へ転入之儀ヲ依頼ス（通知ス）

一 印刷物ヲ警醒社に托ス

五月十日

一 田中市兵衛、田村太兵衛、村山龍平の三氏に募金着手之儀を贊助賛成人及発起人諸氏へ創立委員の名を以て通知する事に取計たる旨ヲ報ス

一 森作太郎氏へ発起人タルランコトヲ求メ且ツ返信ナクバ異存ナキモノト認ムルトノ意ヲ申送ル

一 田中源太郎氏ヲ創立委員中へ加フ（中川君の意見による）

銀行

住友銀行

大阪北区中の島五丁目

鴻池銀行

大阪東区今橋二丁目

三菱

第百十九銀行

東京麹町区八重洲町一丁目

第一国立銀行

日本橋区兜町一、

加島銀行

大阪西区土佐堀老丁目

(デンワ  
一三九)

一 土倉庄三郎氏東京事務所ニ立寄ラル

一 十日成瀬君大隈伯ヲ訪問セシ時ニ福沢諭吉氏へ紹介スベ

ケレバ訪問シテ加盟セシメヨト云ハレタリ

一

五月十三日

一 森作太郎氏発起人タルヲ辞スル旨返電アリ

五月十三日

一 土倉庄三郎氏松村介石氏中川小十郎氏成瀬仁蔵氏麻生正蔵氏相会して左の件々を懇談す(事務所に集会す)

一 近々女子教育演説会ヲ催フス事

一 一回ハ演説者聴レ傍者共ニ男子トナシ一回ハ女子トスル事

一 男子部女子教育演説者ニ依頼スヘキ人名

大隈伯爵

久保田 譲

嘉納治五郎

松村介石

成瀬仁蔵

一 女子部演説者ニハ

下田歌子

加藤錦子

三輪田眞佐子

鳩山春子

三宅龍子

一 音楽会ヲ催フスル事

一 演芸会ヲ催フスル事

一 法律上ノ規定ハ暫次研究シテ之ヲ設クル事

一 時勢ノ如何ヲ顧ミス直に募金ニ着手シ目的ノ金額ニ達セサル場合ニハ再三募集スル事

一 新聞雜誌社ニテ募集シタルモノニハ手数料トシテ募集額ノ二割ヲ与フル事

一 金二十円松村介石より借用

一 内十七円ハ麻生氏下宿料先払

一 三円ハ成瀬氏

一 本日より門前に日本女子大学校創立事務所の看板を掲ぐ

一 萬朝報社員 松内則信氏来訪

一 五月十四日

一 麻生嘉納治五郎氏を文部省に訪ひ日本女子大学校設立趣意書大要の原稿を示志意見を問ふ然るに明日迄貸置きくれよとの事なりき

一 警醒社ニ報告書ヲ渡ス

一 十四銭 麻生 馬鉄代

一 田中源太郎氏は本日創立委員たるを諾せられたり。成瀬氏訪問の結果

一 加藤弘之氏は顧問たるは諾するも創立委員たるは責任重きが故に思考の上返答すべしとの事なれば翌日迄返事をこふことゝなせり

一 大三輪長兵衛氏は創立委員たるを承諾せられたるも片岡直温氏は大三輪氏と相談の上決答すべしとの事

以上三件成瀬氏訪問の結果

五月十六日

一 麻生氏土倉庄三郎氏ヲ品川原六郎氏邸ニ訪フテ趣意書ノコトニツキ一寸相談ス。土倉二十万円ニ募集金ガ昇ラサルトキハ着手セサル旨ヲ記シオクベシト云フ。又金子三百円受取ル。

一金子二十円 松村氏ニ返却ス

一 五十円 成瀬氏ニ渡ス

一 十五円 中川氏ニ返却ス(十三円ナレトモツリナキ故ニ十五円渡シオク)

一 加藤弘之氏創立委員タルヲ辞スル旨ノ手紙ヲ送ル、併シ(伊藤氏)賛員タル事ハ諾セリ

五月十七日

一 麻生氏徳富猪一郎氏ヲ訪フテ賛助員タラム事ヲ乞フ直ニ諾シクレタリ

一 成瀬氏諸氏ヲ訪フテ皆不在

五月十八日

一 中川氏事務所ニ立寄ラル。至急募金ニ着手スベキ必要ヲ説ク

一 十四銭

一 二銭

一 五十七銭

日本女子大学校創立事務所ノ印

自五月十九日同廿三日

成瀬氏奔走準備ニ従事ス

廿二日 米人「

学の事を語り

岡部長職氏賛助員トナル尤モ当方ノ希望ハ創立委員タルヲ

依頼スルニアリシモ卒急ノ際ニテ希望ヲ貫クノ余暇ナカリ

キ

麻生氏大磯ニ伊藤侯ヲ訪フテ侯ノ女子大学ニ関スル文ノ草

稿閲覽ヲ求メタルモ多忙ノ理由ニテ面会ヲ得サリキ併シ草

稿ハ渡シ置ケトノ事ニテ渡シオキタリ

廿五日

(局外付記) 〔廿六日〕

午後三時半ヨリ土倉氏中川氏成瀬氏事務所ニ集リテ相談ス

一 祇園氏事務所ヲ訪ハル

一 幹事長中川氏ハ大抵毎日事務所ニ立寄ラル立寄ラレサルトキハ必ス其旨ヲ電話ニテ報セラル、ヲ例トス

(廿五日) 一本日ヨリ青柳頼廣君ニ書記ヲ暫時依頼ス是レハ書面發送ニツキ多忙ナルガ為メナリ

廿七日

一 麻生青柳執務ス 昼夜共ニ

廿八日

一 中川君立寄ラル

一 麻生青柳同前

廿九日

中川氏終日來リテ事務ヲ監督セラレ仮受領証及申込書ノ草按ヲ作り印刷ニ付ス

大橋君終日助力セラレテ書狀發送ノ準備ヲナス

成瀬氏モ來ラル 成瀬氏ハ毎日大底二度宛ハ來ラル、ヲ例トス

一 書狀百十一通ヲ祇園氏ニ托シテ大阪ノ贊助員ニ發送スルコト、セリ

一 各地ノ發起人創立委員ヘ書狀ヲ發ス

一 成瀬氏ノ名ヲ以テ廣瀬氏ノ發起人増加ノ理由ヲ報ズ

一 成瀬氏ノ名ヲ以テ大隈伯ヲ委員長ニ推薦セシ事ヲ地方ノ創立委員ヘ報ズ

一 青柳君同前

卅日

一 出版物配達社ニ依托シテ書狀ヲ發送スルコト左ノ如シ

一 百四十四通 貴族院議員ヘ

一 参拾通 贊助賛成員ヘ(在東京)

一 貳百七拾五通 衆議院議員ヘ

〆 四百(五十九)通

内 (一)通渡サズ(二)實際渡セシハ四百四十九通

一 成瀬氏ノ名ヲ以テ廣瀬宰平氏ヘ書狀テ此回名簿中發起人増加ノ理由ヲ通知ス

一 中川氏午前立寄ラレテ事務ヲ監ス

一 成瀬氏同前

一 青柳氏事務ヲ助ケラル

一 成瀬氏洪沢氏ヲ迎フ

一 成瀬氏ハ寄付大口ノ方ニ働ク事日夜

卅一日

一出版配達社ニ托シテ書状ヲ送付スルコト左ノ如シ

一 百四十七通

貴族院議員へ

一 参拾四通

賛助賛成員へ

百八十一通

一通配達賃金八厘

内

前后合計

六百三十通

配達会社へ渡ス

内

〔三通重複。〕

十三通郡部返却。〕

〔一〕ハ手数ノ掛ラサルモノ

〔拾通 転居不明返来。六百〇四通配達済。〕

〔一〕ハ配達手数ノ掛リタルモノ

合計六百拾四通

配達手数ノ掛リタルモノ

一成瀬氏ガ手渡セシ書状ハ

一本日左ノ諸品ヲ調製ス

一 寄附金仮領収書

一冊五十枚宛

五十冊

〔巻冊価拾三銭宛

一 寄附金申込書

巻千枚

巻千枚代巻円

一 印形三個

〔日本女子大学校創立委員長〕



〔日本女子大学校創立事務所〕



〔編〕



代二十八銭

代二十五銭

代七銭五厘

一中川君ノ手ニテ寄附金ヲ得ルコト左ノ如シ

一金百円

岡田良平君

一ノ拾円

上田萬年君

一 警醒社ニ依托シテ出版セシモノ左ノ如シ

〔数日前悉皆受取ルモ〕

本日仕払セシニツキ  
焉ニ記ス

一 日本女子大学校創立の趣旨大要

一枚半面刷  
二千枚

一 日本女子大学校

発起人  
賛助員  
賛成員

名簿

一枚両面刷  
二千枚

一 書状

巻千枚

一 第一回報告書

巻千部 (小冊子)

六月一日

一成瀬中川ノ両氏午前午後両度事務所へ来ラル

一 麻生青柳両氏朝七時ヨリ執務午後六時マテ

一 第一回報告書巻千部ヲ同益社ニ注文ス 巻冊九厘

六月二日

一 成瀬中川両氏事務所ニ出頭ス

一 麻生氏執務ス

一 青柳氏書物ス

一 「親展」ノ印形ヲ注文ス

六月三日

一 成瀬中川氏事務所ニ出頭ス

一 麻生氏同前

一 青柳氏出勤ス

一 報告書一千部製本出来ス(同益社分)

一 会計監督ノ印出来ス(日本女子大学校創立会計監督之印) 代三十三銭

六月四日

一 「親展」ノ印出来ス(同) 代八銭五厘

一 中川成瀬氏出頭ス

一 麻生執務ス

一 青柳氏執務ヲ助ク

一 幹事長ノ名テ依頼状発送セシ旨ヲ大隈伯ニ報ス

一 本日書状市内配達ヲ終ル

六月五日 (日曜日)

一 中川成瀬両氏出頭ス

一 麻生氏執務ス

一 青柳氏事務ヲ補助ス

一 創立委員長大隈伯ノ名ヲ以テ募金ノ依頼状ヲ左ノ諸氏ニ  
発ス、

(海外付託)  
〔各省大臣〕

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 大蔵大臣伯爵井上馨    | 海軍大臣侯爵西郷從道     |
| 宮内大臣子爵田中光頭   | 内務大臣子爵芳川頭正     |
| 外務大臣男爵西徳次郎   | 司法大臣會彌善助       |
| 文部大臣文学博士外山正一 | 通信大臣男爵文学博士末松謙澄 |
| 農商務大臣金子堅太郎   | 大蔵大臣伯爵井上馨      |
| 陸軍大臣子爵桂太郎    |                |

(海外付託)  
〔I〕

〔（國外付記）直轄学校長〕

大学総長理学博士菊池大麓  
女子高等師範学校高嶺秀夫  
学習院長公爵近衛篤磨  
高等師範学校長嘉納治五郎  
華族女学校長細川潤次郎

第一高等学校校長久原躬弦

高等商業学校校長神田乃武

東京美術学校校長高嶺秀夫

東京工業学校校長阪田貞一

伯爵夫人大山捨松子

伯爵夫人土方龟子

子爵夫人田中伊与子

下田歌子

鳩山春子

瓜生繁子

三輪田真佐子

加藤錦子

〔（國外付記）III〕

〔（國外付記）II〕

一成瀬氏渋沢住友ノ両氏ヲ訪フテ印章ヲ一覽ニ供ス

各大臣宛草案

〔（采也）西郷侯爵ハ賛成員ニツキ〕

拝啓益御清勝大賀ノ至ニ奉存候陳者同志ノ者等大阪ニ日本  
女子大学校ヲ設置致シ女子教育ノ進歩ヲ図リ度トノ事ニ付  
拙者ニ於テモ右ハ社会ノ美事ト存ジ賛成致シ同志者ノ依頼

其目的ヲ達シ候様積々助力

ニ依リ創立ニ関スル事項ヲ指揮致シ度ト存ジ今般愈広ク其  
創立費及資金ヲ募集致ス様相定メ候間閣下ニ於テモ御賛成  
被成下且又貴省高等官諸君ニ於テモ可成御賛成御助力有之  
候様御誘勸被下度希望ノ至ニ御座候右書中ヲ以テ御依頼申  
上度如此御座候〔（採也）右書中ヲ以テ御依頼申上度〕草々頓首

年月日

伯

追テ

〔（國外付記、采也）第一宛長校字轄直〕

第一案

拝啓陳者〔（採也）今般〕拙者等同志ノ者発起致シ一ノ系統  
アル女子教育機関ヲ得ンガ為ニ大阪ニ日本女子大学  
校ヲ設置スルノ儀唱道致シ候処其見込略々相立テ候  
ニ付キ今般愈々広ク其創立費及資金ヲ募集致シ度ト  
存ジ候間何卒貴下ニ於テモ御賛同下サレ度且又貴校  
教授諸君中ニ於テモ成ルベク御賛成御助力コレアリ  
候様貴下ヨリ御勧誘下サレ度希望ノ至ニ御座候右書  
中ヲ以テ御依頼申シ上ゲ度此ノ如クニ御座候草々頓  
首

伯

直轄学校長宛 第一

(圖外付記) 朱書  
〔近衛公〕

細川氏  
嘉納氏  
高嶺氏  
宛

拜啓預テ申上候通り今般愈々日本女子大学  
校創立費及資金ノ募集ニ着手致ス様相成  
リ申候間貴校教授諸君中ニ於テモ成ルベ  
ク御賛成御助力有之候様費下ヨリ御勧誘  
被成下度希望ノ至リニ御座候右書中ヲ以  
テ御依頼申上度如此ニ御座候早々頓首

年月日

伯

追テ

拜啓預テ申上候通り今般愈々日本女子大学校創立費及資  
金ノ募集ニ着手致ス様相成候間「御懇親ノ貴顕其他」御知  
己ノ方々中ニ於テモ成ルベク御賛同御助力有之候様御勧誘  
被成下度希望ノ至リニ御座候 右書中ヲ以テ御依頼申上度  
如此ニ御座候早々頓首

年月日

殿

伯

追テ

(朱書)  
〔婦人方へ宛タル書束ノ草案〕

大臣、学校長、婦人へ宛タル手紙ノ追テ書草案

追テ創立事務所ヨリ掛リノ者ヲ差出候間其節ハ委細御聞取

ノ上宜敷御高配願上度候

左ノ創立委員諸氏へ大隈伯ノ創立委員長承諾ノ旨ヲ報ス

大三輪、嘉納、久保田、田中、前川

一天野真性氏ヲ書状認メ為メ雇フ

一開発社々長湯本武比古君来ラル依テ募金ノ儀依頼セシニ

一開発社ニテ引受クルコトヲ承諾セラレタリ 中川氏トノ

談判

一福沢翁へ草案ノ如キ手束ヲ送ル、大隈伯の名ヲ以テ

(圖外付記)  
〔案草紙手宛氏沢福〕

拜啓益御清勝大賀ノ至ニ存ジ奉リ候陳者今般同志ノ  
者等大阪ニ日本女子大学校ヲ設置致シ女子教育ノ進  
捗ヲ図リ度トノ事ニ付拙者ニ於テモ右ハ社会ノ美事  
ト存ジ賛成致シ「同志者ノ依頼ニ依リ創立ニ関スル  
事項ヲ指揮致シ」其目的ヲ達シ候様精々助力致シ度  
ト存ジ候老台ニ於テモ御賛成下サレ御助力ニモ預リ  
申シ度ト存ジ候尚主唱者成瀬仁藏君御同申上べく候  
(朱書)  
「間御面会下サレ諸事御聞取り下サレ御  
心添ノ程希望ノ至ニ御座候右御依頼申シ上ゲ度

六月六日

一幹事長ノ名ヲ以テ大隈委員長へ昨日書状ヲ送リシ旨ヲ報

ズ○尤モ書面文案ヲモ閲覽ニ供ス

一 中川君出頭ス

一 麻生氏執務ス

一 青柳氏執務ヲ助ク

一 成瀬氏大隈伯ヲ訪ヒ募金ノ事ヲ相談ス金融必<sup>(マ)</sup>迫ニツキヨク<sup>(マ)</sup>時機ヲ見テ人ニ説クベキノ説ヲ吐カレタリ。岩崎氏ヘハ大隈氏ヨリ説ク筈、

一 成瀬氏福沢氏ヲ三田ニ訪フテ面談ス

六月七日

一 左ノ契約書ヲ帝國教育会ト取交ハス○本文ハ別ニ保存ス

### 契 約 書 写

帝國教育会ト日本女子大学校創立事務所トノ間ニ事務所ノ貸借契約ヲナスコト左ノ如シ

一 貸借室ハ帝國教育会事務所ノ一室ニシテ之ニ日本女子大学校創立事務所ヲ設置スルヲ得ベシ

一 賃借料ハ一ヶ月金五円ニシテ毎月末ニ交附スルモノトス

一 賃借期限ハ無期限トス

但シ日本女子大学校創立事務所ガ他ニ移転スル<sup>(本宅)</sup>時ハ一ヶ月前ニ予メ<sup>(本宅)</sup>通知スベシ。

△又ハ帝國教育会ガ日本女子大学校創立事務所ノ移転ヲ要スルトキハ相互ニ同

一 日本女子大学校創立事務所ハ帝國教育会ノ差支ナキ限リ談話室ヲ毎月貳回講堂ヲ毎月一回電話器ヲ毎日随時無料ニテ使用スルヲ得ベシ

一 前參回分ノ薪炭油料ハ帝國教育会ニ於テ担当スルモ其他ノ場合ニ於テハ使用料ハ勿論一切ノ費用ハ日本女子大学校創立事務所ノ担当タルベシ

一 日本女子大学校創立事務所平常ニ於ケル小使ハ帝國教育会ニ於テ担当スルモノトス

但シ非常繁劇ノ場合ハ双方協議ニ及ブモノトス

一 門前ニハ日本女子大学校創立事務所ノ門標ヲ懸ルヲ得ベキモ位置並ニ容積ハ帝國教育会ノ指定ニ從フモノトス

ス

明治三拾壹年五月九日結約シ本書ハ二通ヲ製シテ双方取換ワシ置クモノナリ

明治三拾壹年五月拾壹日

東京市神田区一ツ橋通町二拾壹番地

貸主 帝國教育会

代表者 嘉納治五郎 印

借主 日本女子大学校創立事務所

代表者

大阪北区中ノ島六丁目拾番屋敷

成瀬 仁 蔵 印

一 午後成瀬中川出頭ス

一 麻生執務青柳補助ス

一 教育持論ニ掲クベキ広告ノ草案ヲ認ム

六月八日

一 中川氏出頭セラル

一 成瀬氏出頭セラル。近衛公ヲ訪ヒ学習院ニテノ募金ノ件ヲ謀ル。野崎武吉郎氏ヲ訪フテ寄附金額ヲ定メラレンコトヲ請フ。下田歌子ヲ訪フテ宮内省並ニ女学校ニ於ケル募金ノ件ヲ謀ルソレ々皆承諾セラル。田中子爵夫人ヲ訪フテ同前ノ事ヲ謀ル夫人心ヨリ承諾セラル。住友氏ヲ訪フ、

一 麻生氏出頭青柳氏事務ヲ補助ス

一 麻生氏女子高等師範学校教授野口保興君ヲ訪ヒ募金法(諸校ニ於テノ)ヲ謀ル曰ク校長ヨリスルハ辞スルナラシモ不在、高等師範学校々々長嘉納君ヲ訪ヒシモ不在。開発社ニ湯本君ヲ訪フモ不在再度訪フモ不在由テ辻武雄氏ヲ訪フテ広告ノ件ヲ謀ル曰ク相談間違ナリ開発社ヨリハ募

金ノ媒介ハ出来ズ雜報ニハ十分紹介スベシト。又三輪田

真佐子ヲ訪フ女史左ノ人々へ名刺ニテ紹介ヲナシクル、コトトナリヌ。松平忠亮、阿部泰蔵、西村茂樹、兩宮敬

次郎、山沢俊夫、西沢之介、

一 教育持論編輯主任辻武雄氏賛成員タルコトヲ諾ス

六月九日

一 成瀬氏午前事務所へ出頭

一 麻生氏同前。高嶺女子高等師範学校長ヲ訪フテ委員長ヨリノ手紙ニ関シ都合ヲ問フ曰ク校長ヨリ寄附金勸誘ハ出来難シ併シ手紙ハ廻ハシ置キヌ当校中ノ賛成員ニ募金ノ事ヲ托スルハ妨ケナシト。高等師範ノ波多野貞之介氏ヲ訪ヒ賛成員勸誘ノコトヲ托スルモ一応主意尙拝読ノ上ニセント云フ。菊池大学総長ヲ訪ヒシモ学士会院出席中ニテ留守

一 成瀬氏大隈伯ヲ訪フ

六月十日

一 成瀬氏出頭セラル

一 毛利公爵北堂鍋島侯爵夫人へ賛助ノ依頼状ヲ大隈伯ノ名ヲ以テ発ス文面ハ福沢翁宛ノモノト大同小異ナリトス

一 陸軍次官中村雄次郎氏ニモ大隈伯ノ名ヲ以テ依頼状ヲ  
発ス文面ハ大臣宛ト同一

一 國光社沢氏家庭雜誌徳富氏(株主) (一) ヲ訪フ不在、  
(麻生氏訪問ス)

一 國光社主ハ広告ノ事モ断然辞スル旨三輪田氏へ返事ア  
リ

六月十一日

一 成瀬中川君出頭セラル

一 頃日ハ事務ナキニツキ人ヲ訪問スル事トナレリ

六月十二日

一 麻生氏 三輪田女史ノ紹介ニテ伯爵松平直亮夫人ヲ四

ツ谷元鮫カ橋町ニ訪フ不快ニテ面会ヲ得ズ家扶ニ遇フ  
テ趣旨ヲ述ブ後日賛否ノ返事ヲスルコトヲ答ヘラル

一 麻生氏廣瀬吳文氏ヲ訪フ不在

一 麻生氏三輪田氏ヲ訪フ 三輪田氏 足立氏(遠州ノ人)

ヲ紹介セラル(飯田町四丁目櫻村別邸ニ居ル人)

六月十三日

一 中川氏半日事務所ニ居ラル成瀬氏も出頭

一 麻生も出勤ス

一 成瀬氏ノ名ニテ北島男爵ニ副委員長ヲ東京ニ置カザル  
旨ヲ報ス

一 大隈伯ノ名ニテ華族名簿ヲ華族会館ニ請求ス

一 中川氏ノ名ニテ学士会ノ會員名簿ヲ学士会ニ請求ス

十五日

一 麻生氏足立源六氏ヲ櫻村邸並ニ同病院ニ訪フモ其人ナ  
シト云フ

一 麻生氏事務所へ出ツ

一 麻生氏中島辺造ヲ訪フ

一 女子大学ヲ東京ニ設置シ……スルノ説出ツ

十六日

一 男爵伊東巳代治氏賛助員タルヲ諾セラレ且ツ応分ノ寄  
附ヲナスベシト云ハレタリ(十五日分)

一 金子壱百円六拾二銭 加島銀行儲蓄ノ分より

一 麻生氏阿部泰蔵氏ヲ芝ニ訪フモ不在同夫人ニ面会し女  
子大学ノ趣意ヲ述ベ賛成ヲ求メ置ク

一 麻生氏事務所へ出勤ス

十九日

一 麻生氏大隈伯ヲ訪ヒ成瀬氏私用旁越後行の序募金ノ事

ヲ相談セシニ時節ノ不可ナルヲ以テ勸誘書ヲ発スルコトヲ止ム

- 一 成瀬中川麻生相会シテ募金ノ事ヲ相談シ学校ナドヲ団体トシテ募集スルコトハ九月以後トナシ当分個人ノ募金スルコト、セリコレ一ハ夏期ニ接スルト一ハ解散後人心動揺等ニヨル

麻生氏事務所ニ出勤ス

廿日

- 一 成瀬氏越後ニ赴ク

廿一日

- 一 麻生氏事務所ニ出勤ス
- 一 加藤錦子ヲ訪ヒ募金ヲ依頼シ募金帳一冊及仮領収証書第二巻ト寄附金申込書五十枚ヲ渡ス(麻生氏)
- 一 三井家ヨリ寄附帳十冊ヲ受取ル

廿二日

- 一 麻生氏事務所ニ
- 一 麻生氏西村茂樹翁ヲ向島ニ訪フテ賛成ヲ請ヒシモ早尚論ヲ主張シ且ツ自分ノ年来ニ多忙ナルカ為メ辞セラル

廿三日

一 麻生氏事務所へ

一 麻生氏松村氏ヲ其自宅ニ訪フ

一 麻生氏中川氏ヲ文部省ニ訪フ不在

一 麻生氏下田歌子ヲ訪フ不在

廿四日

一 麻生氏事務所へ

一 麻生氏廣岡亀子ヲ訪フ

廿五日

一 麻生氏同前

一 麻生氏下田歌子ヲ訪フ不在

廿六日

一 麻生氏同前

一 麻生氏下田歌子ヲ訪フ不在

一 麻生氏三輪田女史ヲ訪フ募金はとても出来ぬ故に辞す

とて辞せられたり

一 本日伊藤侯総理ヲ辞セラル

廿七日

一 麻生氏同前

一 成瀬氏へ伊藤侯辞職ノ旨ヲ報ス

廿八日

一 麻生氏同前

十五日

一 麻生氏近衛公ヲ訪フ不在

廿九日

一 麻生氏同前

十六日

一 麻生氏同前

三十日

一 麻生氏同前

一 成瀬氏大阪ヨリ東京へ上ル

一 成瀬氏越後ヨリ帰京ス

一 越后三条玉木善作君五百円寄附ノ預約ヲナス

一 成瀬氏大阪ヨリ東京へ上ル

一 八月十七日より八月二日まで記述なし

一 八月三日  
(二行抹消)

七月一、二日

一 麻生氏同前

一 八月九日

一 麻生氏上京ス

七月三日

一 麻生氏同前

一 八月十二日

一 麻生氏近衛公を訪ふ恰も他出セんとする処にて他日ヲ

期して帰る

一 成瀬氏中川君ト共ニ下阪ス

一 成瀬氏下阪ス

一 八月十三日より九月二十四日まで記述なし

四日——十四日

一 麻生氏同前

一 九月廿五日

一 成瀬氏上京ス

瀬氏ノ歴訪ハ数日間東奔西走

一 各創立委員ヲ歴訪シテ委員会開会ノ同意ヲ求ムル事

一 正式ニ委員長ノ名ヲ以テ集会ノ時処ヲ定メ各委員ニ案内状ヲ発スル事但会場ハ早稲田大隈邸ニ依頼スル事

一 委員長ノ発言ニテ第一着ニ創立委員ヨリ寄附金額ヲ定ムル事

一 委員会ニ於テ募金其他創立事務ニ関スル原案ヲ議決スル事

一 原案ハ委員長ヨリ提出スル事  
〔原案〕  
一 委員長ヨリ創立事務ノ報告ヲナス事（募集委員ノ事）

一 成瀬氏ヨリ開校着手ノ順序ヲ述フル事

原案

一 発起人会ヲ開キ各自ノ寄附金額ヲ定メ創立事務ノ経過並ニ将来ノ計画等ヲ談スル事

一 寄附金募集ノ依頼状ヲ発シタル各官省各学校ノ募金ヲ実行スル事

一 大阪東京ノ知事ヲ〔創立〕委員ニ依頼スル事  
〔孫浦募集〕

一 各県知事ニ募集委員長タルヲ托シ各地ニ委員ヲ設クル事 但シ依頼状ハ募集方巡廻前ニ発スル事

一 成瀬氏が東京各委員ヲ歴訪シ委員会開会ノ儀ヲ謀リシニ各々賛成セラレ至急開会を可トセラレタリ、最モ成

〔原外付記・原記カ〕  
〔此頃ハ明治三十二年三月ノ記事〕

一 創立委員会ヲ催フコトハ各委員モ同説ナリシモ大隈伯

委員長ノ意見ニテハ先ツ第一ニ岩崎波沢二氏ニ説キ然ル後ニセサレバ不可ナリトノ事ニテ大隈伯ヨリ二氏ヲ招待スル筈ナリシモ岩崎氏関西地方漫遊中ナリシガ故

ニ延引ニ延引トナリヌ

〔九月二十六日より十月二十二日まで記述なし〕

十月廿三日

成瀬 松村 麻生三氏三井氏邸ニ於テ廣岡夫人ト会合シ募金ノ事ニツキ下相談ヲナス

一 肥塚龍 稻垣満次郎両氏創立委員トナル

【明治三十二年】

三月

尾崎行雄氏賛助員タルコトヲ諾セラル

（四月二十二日まで記載なし）

四月廿三日

成瀬麻生氏内海京都府知事ヲ訪フテ募金勸告ノコトヲ依頼ス

四月廿四日

内海忠勝氏大ニ岩崎彌之助氏ニ寄附金ノ事ヲ説キ岩崎氏モ之ヲ承諾セラレタリト

廿五日

成瀬麻生 土倉庄三郎氏ヲ品川ニ訪ヒ募金尽力ノ儀ヲ依頼ス今度ハ是非成否ヲ決着スル迄募集ニ尽力セサルベカラズ余モ其為ニ滞京尽力スル積ナリトテ大ニ募金ニ尽力シクル、トノ事ナリ

土倉氏内海知事ヲ訪フテ募金ノ事ヲ謀ラル

廿六日

内海知事帰任ス、

成瀬氏大阪府知事菊地侃二氏ヲ東京ノ寓所ニ訪ヒ賛助ヲ求メ發起人並に創立委員タルコトヲ承諾セラレタリ

土倉氏ハ位地問題ニ関シテハ位地ハ創立委員ノ意見ニ依リ最モ適當ナル場所ニ設立スルヲ得ルコト、ナシオキテ募金

スル事セントノ意見ナリ

四月廿七日

成瀬氏大隈伯ヲ訪ヒ明后日ノ招待会ノコトニ付キ意見ヲ述べ其後直ニ創立委員会ヲ催フセラレタキ旨ヲ以テセシニ皆承諾セラレタリ

四月廿九日

大隈伯都合あり伊藤侯井上伯岩崎男渋沢氏を招待シ一夕の宴を催ふするの序前諸氏に女子大学の事を相談する筈なりしも岩崎男の外皆差支ありて来会せざりし由にて女子大学の相談も出来ざりし趣なり

四月卅日

成瀬氏大隈伯ヲ訪ヒ昨日の景以を聴く、来る五月七日創立委員会を開く事に相談一決せる由にて成瀬君は岩崎男諸氏を訪問す、岩崎男も来ル七日開会の節は出席する事を諾せられ且つ今回は直ちに金額を定むべき事を談せられたり渋沢氏は風邪にて臥シ居たるを以て手紙を以て七日開会出席の有無を問ひしに病氣なれば確答は出来難きも多分当日迄には平癒すへければ出席すべしとの事なりき 児島惟謙氏は当日横浜に会あるも夕刻ならば差支なき由答へられたり。

廣岡夫人所用有之上京につき募金ノ事等を成瀬氏より談ず

五月一日

是非共御相談願上度儀有之候間万障御繰合セ御来会  
被成下度書中ヲ以テ御案内迄如此ニ御座候早々敬具

日本女子大学校創立委員長

五月四日

伯爵 大隈重信

五月二日

殿

追テ晚餐ノ準備致シ置候間左様御承知被成下度候

麻生氏大隈伯ヲ早稲田ニ訪ヒ成瀬氏ガ委員訪問ノ結果ヲ報告シ且委員会開会ノ時日ヲ相談セシニ八日ニ改メクレヨトノ事ナリキ嘉納氏ヲ訪ヒシモ不在即今京阪地方へ下リ居ル由

廣岡夫人成瀬麻生ノ三氏土倉庄三郎氏ヲ品川原六郎氏宅ニ訪ヒ種々ノ協議ヲナス

五月八日

午后五時ヨリ帝国ホテルニ於テ創立委員会ヲ開ク来会者ハ

大隈伯、岩崎男、渋沢氏、児島惟謙氏、土倉氏、稲垣氏、肥塚氏、成瀬氏、麻生氏、

岩崎氏等寄附金額ヲ定メラル

五月三日

一金五千元 岩崎氏

委員会開催ノ時日ヲ岩崎男渋沢氏ニ相談セシ処岩崎男差支アリタルモ他行ヲ一日延バシテ八日来会ノ旨承諾セラレ渋

一ノ三百円 児島氏

沢氏モ均シク承諾セラレタルヲ以テ愈々八日午后五時ヨリ

一ノ貳百円 稲垣氏

帝国ホテルニ於テ開会スルコトニ決ス

五月九日

五月四日  
創立委員（在東京）へ委員会開会ニ付キ来会請求ノ為メ大隈伯ヨリ左ノ案内状ヲ送ル

成瀬麻生氏大隈伯ヲ訪ヒ礼ヲ述ブ。三井八郎右衛門、同三郎介氏岩崎久弥氏へ寄附金勧誘ノ手紙ヲ大隈伯ヨリ送ラル、事ヲ諾セラル

拜啓来ル八日午后五時ヨリ帝国ホテルニ於テ日本女子大学校創立委員会相開キ募金其他ノ要件ニ関シ

成瀬氏ハ岩崎男渋沢両氏へ礼に行ク  
北島男内海京都府知事廣岡夫人へ昨夜ノ景（註）以テ報通ス

五月十二日

大隈伯委員長ノ名ヲ以テ別紙ノ如キ依頼状ヲ左ノ二氏ニ送ル

三井八郎右衛門

三井三郎助

拝啓 益々御清勝大賀之至リニ奉存候陳ハ兼々御配慮ニ預リ居り候日本女子大学校資金募集ノ儀今回愈々着手スルトニ相談シ申候就テハ主唱者成瀬仁蔵君御伺可申上候間御面会被成下諸事御聴取り被下御賛助ノ程希望ノ至リニ不堪候右御依頼申上度如此ニ御座候草々敬具

委員長

殿

五月十四日

大隈伯金子壱千円 寄付セラル

五月十五日

一委員長大隈伯ノ名ヲ以テ三井九家へ左ノ書面ヲ發送ス

拜啓益々御多祥大賀至極ニ奉存候陳ハ兼々御伝聞ノ事かト存候ガ一昨年来拙者共同志ノ者発起致シ日本

女子大学校ナル名称ヲ以テ完全ナル女子教育所ヲ設立スルノ計画ヲ相立テ候処生憎モ経済界ノ不振ニ遭遇致シ候間暫時該資金募集ノ儀相見合せ居リタル次第ニ候然ル処頃日景氣回復ノ兆候モ現シ且ツハ女子教育ノ振興ハ陛下ノ一大急務ニ有之候間今回愈々右資金募集ニ着手致シ大ニ天下ノ有力家ニ訴へ是非共当初ノ計画ヲ貫徹仕度候、就テハ別封トシテ該大学設立主意書等御送付申上候間御一覽ノ上御賛成御助力被成下度奉切望候右以書中御依頼申上度如此ニ御座候草々敬具

長

大隈

三井 元之助

源右衛門

高保

復太郎

養之助

得右衛門

守之助

八郎次郎

武之助

右ノ書面ト共設立主意、人名簿、報告書ヲ一部宛送付ス

五月十六日

委員長ノ名ヲ以テ学習院長代理細川濶次郎氏へ院中募金ノ

依頼状ヲ発シ設立主意等三十五部宛ヲ送ル

拜啓益々御勝健大賀至極ニ奉存候陳バ日本女子大学

校設立ノ儀ニ付毎々御配慮被成下難有御礼申上候却

説実ハ昨年該資金募集ニ従事致ス筈ニテソレ々御

依頼状ヲモ差上ケタル次第ニ候モ経済界ノ事情等ニ

依リ一先ス見合ス事ト相成リ申候然ル処頃日景氣モ

稍々回復致し候間今回ハ愈々右募金ニ実地着手致シ

申候就テハ貴校御教授諸君中ニ於テモ可成御贊助被

成下様貴下ヨリ御勧誘有之度希望ノ至リニ御坐候右

以書中御依頼申上度如此ニ御座候早々敬具

追テ女子大学設立主意書等御送付致度候間御教授諸君へ御

配付被成下度候

十七日

一阿波百子(松之助氏夫人)金子百円ヲ寄付ス

一文部次官奥田義人氏金子百五十拾円寄付ス

十八日

一本日ノ寄付者

一金百円也

村井知至君

一三井三郎助氏創立委員タルコトヲ承諾シ、全八郎右衛門

氏発起人タルコトヲ承諾セラル

一成瀬氏日々寄附募集ノ為メ東西ニ奔走ス

十九日

一麻生氏大隈伯ヲ訪ヒ伯大阪下向ノ期日ヲ訪フ伯ハ廿六日

正午十二時発ニテ直行京都ニ向ヒ三十日頃大阪ニ下リ六

月三四日頃東帰ノ予定ナリト言フ。大阪京都ニテ発起人

創立委員会ヲ催フス事並ニ之ニ出席セラル、事ヲ諾

ラセレタルモ即日即今定メ難シト言フ。

大学教授富井博士、梅博士、金井博士、菊地博士等に伯

ノ名ヲ以テ寄附金ノ依頼状ヲ送ルモ差支ナキ旨承諾セラ

レタリ。

廿四日

一成瀬氏大阪へ下ル。大隈委員長長西下ヲ機トシ京都大阪ニ

於テ発起人並ニ創立委員会ヲ開クノ準備ヲナサシガ為ニ

出發ス。汽車中西郷内務大臣ニ面会シ賛成助力ヲ求ム、

濱岡光哲氏、浮田桂藏氏安藤謙三氏等ニ面会ス。

廿五日

大隈伯委員長西下ヲ機トシテ京阪ニ於テ創立委員会等ヲ開ク筈ナリシモ今回伯ノ西下ハ非増租同盟大会ニ臨席スルガ為メニシテ即チ政治旅行ナリシ為メ反対党ノ為メ伯ト伊候トヲ同時ニ委員会ニ招待シテ一場ノ演舌ヲ乞フノ策ヲ不可ナリトセラレ遂ニ委員会ヲ催フシテ寄附金ヲ募ル事ハ見合セタリ併シ女子大学ノ為メニハ政治上ノ党派ノ何タルニ係ハラズ皆益々熱心ニ賛成シ呉ル、様ナリタルハ賀スヘキ事ナリ

一 伊藤侯京阪ニ來ルノ日ヲ待チ一場ノ演舌ヲ依頼シ寄附金募集ノ便ヲ謀ラントテ成瀬君ハ大阪ニ滞在ス最モ此說ハ内海知事菊地知事等ノ考ヨリ來リシモノナリ

一 一金三百円 中川小十郎  
一カ百円 大戸復三郎  
一カ百円 西田由

廿六日

一 麻生氏大阪ヨリ來阪セヨトノ電報ニ接シ本日大隈伯ノ一行ト共ニ西下シ廿七日京都ニ立寄り直ニ其日大阪ニ下リ廿八日廣瀬幸平氏ヲ須磨ニ訪ヒ委員會臨席ヲ依頼ス氏之ヲ諾セラル

廿八日

午后三時頃ヨリ大阪中ノ島花屋ナル大隈委員長ノ旅室ニ於

テ創立委員並ニ發起人ノ主タル人々ニシテ本日集リ得ル丈ノ人々ヲ乞フテ集會ヲ開キ委員長ニ礼ヲ述ベ後事ヲ談ズ委員長ヨリモ東京ノ模様並ニ女子大学設立ノ必要等ヲ説キ來會者ニ助力ヲ求メラル來會セシ人々ハ

大隈伯、北畠男、菊地大阪府知事、田村大阪市長、波多野傳三郎氏、磯野小右エ門氏、土居通夫氏、田辺貞吉氏、伊庭貞剛氏、渋川忠次郎氏、前川楨藏氏、廣岡淺子、成瀬仁藏氏、麻生正藏氏

委員長ヘノ謝辭八年長者 磯野廣岡ノ両氏之ヲナシヌ

一 伊庭貞剛氏ハ芝川又右エ門氏ニ寄附金勧誘ノ件ヲ自ら申出テ、受負ヒクレヌ

土倉氏京都ニ病氣ニ罹リ來阪スルヲ得ズ、廣瀬幸平氏モ須磨ヨリ大阪自宅ヘ帰ラレシモ是亦病氣ニテ出席スルヲ得ズ、村上龍平氏ハ本日土京ニ付出席セス、大三輪長兵衛氏ハ在韓ニ付出席ナシ

六月一日

大隈伯帰京ニ付成瀬氏彦根迄見送り麻生氏ハ伯一行ト共ニ帰京ノ途ニ就ク

六月八日

京阪ニ於テ板伯ノ西下ヲ機トシテ招待會ヲ開ク來會者ハ板伯ヲ始メ片岡健吉林有造

六月廿二日

成瀬仁蔵氏大阪ヨリ帰東ス。

自廿三日至廿六日

成瀬氏當時上京中ノ知事ニ向テ西郷大臣ヨリ尽力ノ儀ヲ依頼セシメントテ京都内海知事、西郷内務大臣等ヲ度々訪問セシモ須要ノ地ニ在ル知事中帰任スル者アリ且ツハ時日切迫ニテ好機ヲ得ズ遂ニ西郷内務大臣ヨリ勧誘ノ手紙ヲ各府県知事ニ発スル事ニ定メタリ

廿五日寄附金ノ約束ヲナシタル人々

一百円

徳富猪一郎君

一百円

京都 村井吉兵衛君

一百円

竹越与三郎君

一百円

松本君平君

一頃日創立委員長病氣ノ由成瀬君見舞ニ行キヌ

一左ノ諸氏ニ手紙ヲ送ル、成瀬氏ノ名ニテ礼状。

北島男爵、伊東徳三、藪田勘祐ノ三君

一世良田亮氏賛助セラル、コトナリヌ(成瀬氏直接面会ノ

結果) 且ツ氏ハ松平忠正公ニ勧誘スル事ヲ承諾セラレタリ

牛込市ヶ谷谷町百二十番 世良田亮

麴町上六番町

松平忠正

一設立主意書等三部七冊、演古集二冊女子教育一冊世良田氏へ送ル

廿七日ヨリ廿八日

一百円

加藤勇次郎君寄附

一百五十円

大隈伯爵夫人寄附

一廿九日寄附金簿壹冊、(コレハ住友 主意書等十冊) 仮受

領状二冊、有阪忠平氏ニ托シテ廣岡氏へ送ル、

仮受領証 十五包ハ廣岡  
同 七包ハ住友

一設立主意書二十二冊、名簿二十二部、報告書 十五冊

申込書十六枚

仮受領書第四卷一冊

西田由氏へ送ル

一成瀬君ノ訪問セシハ伊藤侯、榊山伯、波沢氏大隈伯、市

原氏、神田乃武男、加藤勇次郎、内海京都知事、村井

氏、福岡秀猪氏、等

一長屋忠明氏ヲ事務員トシテ雇フ事ヲ村井君ト相談ス

一土倉氏へ運動費ノ事ニ付手紙ヲ送ル

六月三十日

一金百円 中山操太氏ヨリ借入

七月一日ヨリ五日迄

其后成瀬君ノ面会セシ人々ノ主ナル者ハ左ノ如シ

長岡子爵——応分ノ助力ヲナスベシ。本家細川侯ニモ  
勧誘スベシ。華族会館ヨリハ五万円位ノ寄附ハ出来ク  
ベシ。

文部大臣樺山伯

総理大臣山縣侯

文部次官奥田義人氏

大倉喜八郎氏 明治廿五年迄(三十九)ハ何等ノ事業ニモ寄

附セサルコトニ致シ居レバ(三十九)二十五年后ニハ応分ノ寄

附ヲナスベシ

辻新次 東京女学館トノ合併談アリ。

一日朝内海京都府知事婦任セラル。知事ハ帛京中女子大学  
ノ為メ或ハ文部次官ニ或ハ文部大臣ニ或ハ総理大臣ニ説キ  
大ニ尽力セラレタリ。麻生氏新橋ニ見送ル。

大山侯夫人

七月十六日

一 戸川安宅氏創立事務幹事トシテ募金事務ニ助力セラル事  
トナル

日本女子大学史資料集 第一

日本女子大学校

創立事務所日誌 (一) (二)

発行日 一九九五年三月三十一日

編集 日本女子大学成瀬記念館

発行 日本女子大学成瀬記念館

〒112 東京都文京区目白台一―八―一  
電話 (〇三) 三九四二―六一八七

印刷 共同印刷株式会社

〒112 東京都文京区小石川四―一四―一二

